

清平調詞 その二（李白）

一枝濃艶露凝香 雲雨巫山枉斷腸
借問漢宮誰得似 可憐飛燕新粧倚

一枝の濃艶露香を凝らす

解説 沈香亭の牡丹の美しさと貴妃の美しさを詠んだ作品。

雲雨巫山枉げて断腸

語釈 ※雲雨巫山Ⅱ楚の襄王が高唐に遊び、夢の中で巫山の神女と契つたが神女が去る時、自分は巫山の南の高い丘に住み、朝には雲となり、夕方には雨となる、と告げた故事の事。 ※枉Ⅱむだに。いたずらに。 ※借問Ⅱためしに問うこと。 ※漢宮Ⅱ中国・漢の天子の宮殿。 ※飛燕Ⅱ前漢の皇帝・成帝の后。 趙飛燕の事。

借問す漢宮誰か似たるを得ん

通釈 一枝のあでやかな牡丹に露がやどり香を凝結させた。美しい楊貴妃を侍らせる我が君に比べれば、昔、巫山の雲雨を眺めて神女と契りを交わした楚の襄王は、夢から覚めた時に女神の姿が見当たらなければ、断腸の思いをしただろう。聞いてみよう。

漢宮にいる数多くの美人の中で、誰が楊貴妃の美しさに似ているだろう。それはあの愛らしい趙飛燕が化粧したばかりの美しさだろうか。

可憐の飛燕新粧に倚る